



公開委員会のお知らせ



テ ー マ： 低 CO₂ 排出を目指す最新燃料技術

開催日時： 2025 年 10 月 1 日（水） 13:30 ～ 16:50

会 場： 実地+オンライン(ハイブリッド開催)

実地会場： 同志社大学東京オフィス セミナー室（定員：88 名）

<https://tokyo-office.doshisha.ac.jp/to/access/map.html>

※定員を超えましたら、申込締め切り前に、実地参加は締め切りをさせていただきます。
予めご了承ください。

主 催： 公益社団法人自動車技術会

企 画： ガソリン機関部門委員会とディーゼル機関部門委員会との合同企画

参 加 費： 無料

申込締切： **2025 年 9 月 22 日（月）**

申 込 先： **下記 WEB サイトよりお申し込み下さい**

⇒ <https://www.jsae.or.jp/enquete/20251001/>

締め切り後、参加者には Teams の URL と当日のご案内を送付致します。

お問い合わせ： 公益社団法人自動車技術会 技術交流課 澤辺

E-Mail : tech@jsae.or.jp / TEL:03-3262-8235

***** **ご案内** *****

2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて、内燃機関の継続的な効率改善と再生可能燃料の活用は不可欠です。現在、次世代の燃料との組み合わせにより内燃機関のポテンシャルを最大限に引き出す様々な研究開発が進められています。本企画において燃料および内燃機関の最新動向に関する話題を提供いただくとともに、ガソリンおよびディーゼルエンジンの技術者が一堂に会し、最新技術について有益な議論を行えることを期待しております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

***** プログラム *****

13:30 ～ 13:35

開会挨拶：ディーゼル機関部門委員会 委員長 同志社大学 松村 恵理子 氏

講演

13:35 ～ 14:20

1. 題 目「カーボンニュートラル燃料(CN-fuel)に関わる最近の動向と主な課題」

講演者：岡山 紳一郎 氏

所 属：(株) Motolity

要 旨：2050 年 Carbon Neutral(CN)実現に向け、自動車の Battery Electric Vehicle(BEV)化が必須であるとの報道が多い。しかし、BEV の電池材料の資源制約や原材料精錬の偏在問題から、全ての自動車を BEV にすることは容易でないことが見えてきた。この制約下で CN を実現するためには内燃機関(ICE) + Carbon Neutral 燃料(CN-fuel)の組合せが実現的である。今回、ガソリン／軽油代替 CN-fuel の種類とその特徴や導入時の課題、また、導入に向けた国の動きについて解説する。更に、将来型燃料になった際に、大気影響を検討するに資する情報も紹介する。

14:20 ～ 15:05

2. 題 目「HINOCA を用いたサイクル間燃焼変動およびノック発生位置の予測解析」

講演者：伊藤 貴之 氏

所 属：(一財) 日本自動車研究所

要 旨：エンジン燃焼解析ソフトウェア HINOCA は、SIP 革新的燃焼技術で開発され、SIP 終了後も自動車用内燃機関技術研究組合 (AICE) の研究の中で改良が継続されている。本講演では、HINOCA の概要と、ディーゼルエンジン対応を含む近年の改良内容を紹介する。さらに、HINOCA を用いた解析事例として、吸気ポート噴射式および筒内直接噴射式ガソリンエンジンのサイクル間燃焼変動解析、および吸気ポート形状がノッキング発生位置に与える影響についての検討結果を報告する。

15:05 ～ 15:15

休憩 (10 分)

15:15～16:00

3. 題 目「希薄条件におけるエタノールの層流燃焼速度」

講演者：片岡 秀文 氏

所 属：大阪公立大学 工学研究科 機械系専攻

要 旨：大阪公立大学では、燃焼特性を把握するために、微小重力環境を用いて様々な燃料の層流燃焼速度を計測している。本講演では、低 CO₂ 排出を目指し、希薄条件におけるエタノールの層流燃焼速度について紹介する。

16:00～16:45

4. 題 目「CO₂ 低減に寄与する廃プラスチック舗装の開発」

講演者：小早川 尚之 氏

所 属：ENEOS 株式会社 中央技術研究所サステナブル技術研究所 燃料技術グループ

要 旨：一般的な道路舗装は、約 95%（重量比）が骨材である石や砂で構成され、アスファルトがバインダーとしてそれを繋ぎ留める役割を担っている。骨材に廃プラスチックを利用することができれば、国内外で高まりつつある廃プラスチックリサイクルのニーズに応えることができる一方、石や砂などと異なり表面の凹凸がない廃プラスチックの骨材利用では、骨材同士の噛み合わせが生じないことで舗装強度が大きく低下することが課題であった。本技術開発においては廃プラスチック骨材への粘着力や、変形に耐えられる強度を付与したバインダーを開発して使用するとともに、送電線の絶縁体として広く使用されている架橋ポリエチレンを骨材として選定した。

16:45 ～ 16:50

閉会挨拶：ガソリン機関部門委員会 委員長 九州大学 北川 敏明 氏

個人情報の取扱いについて

公益社団法人自動車技術会（以下、本会といいます。）は、公開委員会に参加申込まいただいた氏名、住所、電話番号等の情報（以下、「個人情報」）を、以下の通り取扱い致します。

1.個人情報の利用について

お申込みいただく際に取得する個人情報について、以下の目的に利用致します。

- i. 開催における参加者への必要な確認、連絡
- ii. 申込者受付リストの作成
- iii. 自動車技術会の活動（講演・イベント事業、出版・販売事業、学生・育成事業、委員会事業、会員事業）に関する依頼・ご案内

2.業務委託について

本会は、本行事に関し、運営管理業務を業者へ委託する場合があります。この場合、本会は業務委託先と守秘義務契約を締結するとともに、厳正な管理監督を行います。

3.個人情報の開示、訂正、廃棄に関して

参加申込時にご登録いただいた個人情報の開示、訂正、利用停止を希望する場合には、下記の間合せ先までご連絡下さい。なお、これらの個人情報の廃棄は、必要な期間が過ぎると同時に、できるだけ速やかにかつ安全に行います。

4.間合せ先

公益社団法人自動車技術会 技術交流課 tech@jsae.or.jp

※個人情報保護規則、プライバシーポリシーについては、こちらをご覧ください。

個人情報保護規則：https://www.jsae.or.jp/files_publish/page/456/46.pdf

プライバシーポリシー：<https://www.jsae.or.jp/public/incorporation/privacy/>